

今後の水泳授業のあり方について

1 全国的な動向

- ・ 猛暑による熱中症リスクや天候不順
- ・ ジェンダーへの配慮
- ・ 施設の老朽化（財政負担の増加）
- ・ 水質管理等の教職員の業務負担



- ・ 水泳実技授業の廃止
- ・ 水泳授業の民間委託
- ・ 外部委託等の積極的検討
（文部科学省通知）

2 本市の現状

- ・ 猛暑等による水泳授業の中止
- ・ 学年が上がるにつれて欠席率が上昇（中学生では23%）
- ・ 学校プールの多くは修繕等が必要な状態（築20年以上14校）
- ・ 新しい施設と古い施設が並存
- ・ 物価高騰等による改修費や維持管理費の経費増加
- ・ 水質管理等の教職員の業務負担に関する働き方改革の検討

3 城東小学校での民間委託の試行状況

(1) メリット・デメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的指導を受けられる ・ 学習意欲の向上 ・ 屋内のため、気温が安定している ・ 気候に左右されず授業ができる ・ 専門的指導による泳力の向上 ・ 清掃や水質管理などの業務負担の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水泳授業の回数が減る。 （※1回の活動時間が長く、水泳時間は確保） ・ 移動（バス往復）の時間が必要となる。 ・ 受け入れ態勢の構築 ・ バスとスタッフの確保 ・ 受託事業者が限定的

(2) 民間委託にあたっての諸条件（基準）

- ・ 伊藤スイミングスクールの場合、小学生に限る（中学生は受入不可）
児童数は土器校で600名以内、郡家校で300名以内
- ・ 移動距離は直線距離で3km以内
- ・ 移動時間は片道10分程度

4 今後の水泳授業の実施方法について

○小学校の水泳授業については、以下のいずれかの方法を検討

- ・ 民間委託
- ・ 学校プールの共同使用
- ・ 自校授業
- ・ インストラクター派遣（専門的指導機会の保障）

○中学校については、水泳授業を座学で実施（改修等が必要になった学校プールから廃止）

5 実施方法の決定プロセス

(1) 民間委託

①民間委託の試行（諸条件に合う学校で、改修もしくは古いプールから順次）



②委託事業者への試行状況の確認



③児童・保護者への意向調査



④学校との協議



⑤委託の可否の決定

(2) 学校プールの共同使用

- ・共同使用する学校の組み合わせを教育委員会から提案し学校間で協議

(3) 自校授業

- ・民間委託又は学校プールの共同使用校以外の小学校

(4) インストラクター派遣

- ・学校プールの共同使用校もしくは自校授業実施校からの希望による

《参考》

○ 学校プールの維持費及び民間委託費

	年間経費(約)	内 訳 (備 考)
現 状	785 万円/校	維持管理費 約 185 万円 (年平均) (水道料 50 万円・薬品代 20 万円・ろ過材 20 万円・修繕料等 95 万円) 建築経費 約 600 万円 (解体費を含む) (垂水小改築工事費約 2 億 8 千万円を耐用年数(47 年)で割った額)
委託料	1.2 万円/人	各学年 4 回実施 送迎バス 2 往復/日 (12 日実施) 指導時間 50 分 (インストラクターを 2~3 名配置)

○ 民間委託試行順

- ・城東小 →・飯山南小 →・城辰小 →・飯野小 →・城乾小 →・城北小 →・城西小→・垂水小

教育施設案内図

